

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームすま飛松		
所在地	神戸市須磨区板宿町2丁目5-23		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に商店街やスーパー等のお買い物ができる場所の多い立地で、必要な物を職員と買い物に出かけたり、馴染みのお店でお買い物ができるご入居者様もおられる。職員は個別ケアを念頭に、その方の状態に応じた支援やご希望にそった支援を行っている。外出が難しい方もエントランスでの外気浴を楽しんで頂いたり季節を感じて頂けるよう配慮している。職員手作りの壁面飾りをご入居者様にもお手伝い頂いて手作業を行う事や完成した喜びを感じて頂けるように毎月計画・準備を行っている。また、洗濯物を畳んだり、食器洗いをお手伝い頂いたり、個別に対応した自立支援を行っている。児童館の子供達の訪問も定期的であり、地域の方との交流を図っている。住み慣れた地域の中で安心して過ごせるホームを目指している。

駅に近く活気あるアーケード商店街が残る生活の利便性に富んだ地域である。住宅街にある普通の民家で、利用者同士が一緒にリビングでテレビを観たり談笑している様子は、我が家にいるような雰囲気である。地元の利用者は、これまで通り馴染みの喫茶店で過ごしたり馴染みの店での買物を日課にするなど、以前と変わらぬ生活を送っている。日常の食事の準備、掃除や洗濯物の整理等の家事も、それぞれできる人が分担するなど、利用者同士の助け合いも生まれている。利用者の個性や心身状態の差はあれ、互いが気にかけていつのまにか話が弾んでいる様子を職員は温かく見守るなど、利用者の特性を十分理解したさりげない職員の関わりが、利用者の主体性を引出している。今後も地の利を活かした積極的な外出を継続し、地域の一員として暮らし続けられるよう取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念と共に、施設の「地域に密着した介護サービスの運営方針」を元に職員は支援を行っている。	ミーティングやケース会議等で、日々のケアを考える中で理念を振り返るとともに、より浸透するよう周知を図っている。例えば、虐待研修や認知症ケアについて学ぶ際にも、理念がケアの根幹となるよう意識統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童館の子供達の定期的な訪問や、運営推進会議では民生委員の参加で地域との繋がりと交流を行っている。	周辺を散歩したり、近隣の商店に買物に行った折に挨拶を交わすことが増え、顔馴染みの関係ができつつある。恒例となっている児童館の子どもたちとの触れ合いは、利用者の楽しみとなっている。今後は、利用者も一緒に事業所周辺のゴミ拾いを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	児童館の子供との交流を行う事や運営推進会議で認知症の人の理解や支援方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あんしんすこやかセンターと運営推進会議で情報の共有をや報告を行い、あんしんすこやかセンターの取り組みや情報の発信をしてもらっている。	事業所からは行事や事故報告、利用者の様子とともに事例を紹介している。平日及び土日交互に開催することで、できるだけ参加できるよう配慮している。管理者は、現在報告が主となっている会議内容を、今後は地域とのつながりや関係性を築くテーマを盛り込んでいきたいと模索している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしんすこやかセンターや区役所あんしんすこやか係と運営推進会議屋や須磨区グループホーム連絡会に参加し情報共有や報告を行っている。	制度上に関する事務連絡や相談については、必要に応じてやりとりしている。グループホーム連絡会には区の担当者が出席しており、定期的な情報交換を行っている。地域包括とは、日常的な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等で身体拘束をしないケアを職員間で話し合い取り入れている。	職員は定期的な研修で学び、普段から意識の定着に努めている。基本、拘束はしない方針だが、安全上、やむをえず玄関は施錠している。職員は利用者の様子から察し、一緒に外に出る機会を設けるなど、閉塞感のないよう努めている。	昼間、少しの時間からでも玄関を開錠できるように、継続して検討いただきたい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を行い、実際のケアの中で虐待や不適切ケアに繋がる行為はないかチェックシート使用し確認、参加職員で対応策等の話し合う機会を持っている。	上記と同様、定期的な研修を行っている。職員の振り返りと併せ利用者一人ひとりの事例を検討し、職員の意識統一を図っている。管理者は、毎月職員面談を通じてメンタル面でのサポートを行うなど、良好な職場環境となるよう心がけている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、社内での研修を受けた職員が施設内での研修を行った。	法人研修受講者による伝達研修にて、学んでいる。職員は、制度をおおまかに理解しており、現在、制度を活用している利用者を通して身近に学ぶ機会がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約上の不安や不明な点は理解、納得頂けるまで丁寧に説明を行っている。	最初にグループホームの特性と併せ事業所の方針を説明する中で、特に医療面については、家族の想いや不安も聴きながら丁寧に話している。事業所からは、家族に行事や運営推進会議への参加、普段の気軽な来訪をお願いしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご来訪時のご家族の意見や要望は職員全員が理解し反映している。「ご家族満足度アンケート」を行いご家族のご希望やご意見を反映している。	普段の来訪時に、家族が気軽に話しかけるようこちらから声をかけたり、別に相談の時間を設けるなどコミュニケーションを図るようにしている。運営推進会議の日程調整のアンケートを行い、反映した事例がある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との面談やミーティング等で意見や提案を聴く機会を持っている。	普段の会議や申し送り時に、積極的に意見や提案を出してもらうよう職員に働きかけている。利用者個々のケア方針や職員間の連携についての要望があがり、その都度検討、反映している。職員の個別面談で、個々の相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れ、職員のやりがいや向上心が持てるよう人事制度の整備を行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修の参加や外部の研修に参加できる機会を積極的に持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会やリーダー会議に参加しネットワーク作りや、情報共有を行いサービスの向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に面談を行い、お話を傾聴し不安の軽減や安心に繋がるよう説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までに十分にお話を伺い、納得頂けるまで説明を行っている。なるべく一人の職員が窓口になり信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のお話を十分に聞き、その時、何が最善か必要なサービスを見極め、他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者主体のケアを行い、出来る事を行うことで役割のある生活と生活を共にする者同士の関係が出来ている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来訪時に近況の報告を行ったり、随時お電話にて状況を報告している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪や電話の援助を行い関係が途切れない支援を行っている。ご家族との外出、外泊の準備を行い支援している。	日常的に家族や知人の来訪が多く、くつろいで過ごしてもらえるよう職員は声かけしている。利用者との普段の会話から懐かしい話題や昔話を聴くことも多く、じっくり聴いている。自宅に帰省し家族と過ごすことを楽しみにしている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションの時間を共有できる時間を持ち、職員が間に入る事でコミュニケーションが促進できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのご希望や意向を伺い、困難な場合はご家族にこれまでの生活歴等をお聞きしたり情報収集し職員間で共有している。それらをケアプランに盛り込んでいる。	利用者の意向や思いを、普段の会話や個別の時間に聞き取り把握している。利用者が得意としていることや好きなことに取り組む場面や機会を用意することで、想いにつなげている。時には、職員が手を携え一緒に関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子等を聞き取り、これまでの生活が継続できるよう務めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で現状の把握に努め、カンファレンスで職員の情報の共有に務めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医や訪問看護師と話し合い、それらをケアプランに反映して作成している。	毎月のケース会議で居室担当がモニタリングを行い、3項目に集約した利用者のプランに掲げた目標をもとに、状態の把握、共有を図っている。短期目標の終了、または状態変化や入院等があった場合には、その都度見直している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はケース記録に記入している。ケアプランに基づく抜粋した内容は、個人記録にチェックしモニタリングを全職員が参加出来るようにしている。それらの結果を踏まえケアプランの作成に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスやサービス担当者会議で話し合う事で個別のケアに取り込んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の児童館の定期的な訪問や、ボランティアによる訪問で演芸等を楽しまれている。日常生活では家事等が出来るような支援を行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診や訪問看護の診察を受けておられる。希望に応じ訪問歯科や眼科の往診を受けている方もいる。	利用者、家族のこれまでのかかりつけ医の継続を優先している。受診は家族の付き添いとしているが、都合が悪い場合は職員が支援したり、検査の場合は同行することもある。家族の希望で協力医の往診等を利用している人もいる。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	365日24時間対応で訪問看護師と連携を取っている。状態の変化に応じた電話相談や緊急時の対応をして頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報共有を家族、病院と相互に行い、スムーズに入退院出来るように務めている。受診時の情報提供を書面を作成し行っている。	できるだけ入院にならないよう、日常の健康管理には注意している。入院時は、早めに医療関係者と情報交換を図り、同様に利用者の状態に応じた早期退院にもつなげている。緊急時は速やかな連携が図れるよう利用者情報を書面で用意している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに対する施設の考えを示している。看取りに関する家族の意向をお聞きし、主治医、訪問看護師と連携を取りながら今後の方向性を考え、看取りの状態になった時はご家族主治医、訪問看護師と密に連絡を取り対応している。	契約時、重度化や看取り時の方針を説明し、家族の意向を確認している。入院等利用者の体調変化に応じて相談するなど、家族の不安を無くすよう努めている。現在、看取りの利用者の支援を行っており、不安を持たれたり孤独にならないよう表情をみながら声かけしている。家族とは密にやりとりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていない。施設での研修や勉強会で行う予定。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い消火器の使用方を訓練したり、火災発生時の夜間帯の避難について話し合っている。地震、水災害時の社内マニュアルを作成し、災害時の情報収集や連絡体制を確認している。	定期的な昼夜想定訓練を、利用者も一緒にやっている。密集した住宅街という環境から、夜間想定には特に力を入れて避難経路の確認を行っている。職員は、自然災害を含む防災全般にわたって危機管理の意識を持つよう日々心がけている。	運営推進会議を通じた地域との協力体制の強化を継続して図っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応では人格を尊重した対応を心がけている。	高齢者を尊重した敬う気持ちを常に忘れないよう心がけている。利用者一人ひとりの想いや心身状態を十分理解し、その人に沿った関わりを持っている。管理者は、排泄や入浴時の声かけや誘導の際の声かけについて、折にふれ職員に注意を促している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人の希望をお聞きし尊重している。外出の希望等は出来るだけ対応するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	格一的に行動するのではなく、ご希望を聞きながら個人のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と洋服選びを行って頂いているご望者には訪問理美容を受けて頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の昼食作りで好みのメニューを相談して決め、準備から後片付けまで出来る事をお手伝い頂いている。	普段は、委託業者から半調理のものが届き、スタッフが最終の味を調整したり和え物を完成させ、盛り付けている。利用者の中には、盛り付け、食事の準備や後片付けなどに自ら関わる人もいる。月2回のリクエストによる手作りメニューや手作りおやつの際は、買物から調理まで利用者と職員が共同で行う楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録を行い、水分が不足している方、摂取が困難な方にはお好みの飲みものを準備したり、ゼリーで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、希望者は歯科衛生士の往診を受けている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声掛けを行い出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。状態に応じたオムツ、パットを検討し使用している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、それをもとに誘導している。車椅子であってもトイレで排泄してもらうなどその人なりの自立支援を重視している。業者による排泄用品の選択方法や当て方、特徴についてリサーチを受け参考にした結果、使用量を減らす効果があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護師に相談しながら排便コントロールを行っている。整腸作用のある乳製品等を提供している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2・3回入浴して頂いている。ご本人の要望や体調に合わせて入浴して頂いている。	利用者の習慣や好み、その時々気分に応じて入浴してもらっている。職員が声かけすることが多いが、無理強いせず時間をずらしたり、職員が代わって声をかけている。時間やつきり方などの習慣やこだわりを尊重し、個々のペースを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間はご本人の生活状況に合わせて支援している。お昼寝等の休息の時間も状態に合わせて取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は薬情報で職員が確認し、疑問や質問は薬剤師に相談している。服薬時の確認は2重チェックを行い、事故がないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、食器洗いをして頂き、個人に合った家事をすることで役割をもって生活している。音楽を楽しむ時間やタバコやノンアルコールビール、コーヒー等の嗜好品を楽しんで頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表を作成し、ご希望にそって外出出来るように支援している。	意識して積極的に外出している。地元の馴染みの喫茶店で過ごす男性利用者、馴染みの店での買物、自宅への帰省など、車椅子利用の有無に関わらず外に出掛けている。気候のいい時期は、周辺の散歩、ドライブがてら花を観に行ったり、時には遠出することもある。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はして居られない。必要な物はその都度立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は自由に使えるように支援している。郵便物も自由にやり取り出来るようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月替わりの壁面装飾等で季節を感じて頂けるようにしている。台所がオープンになっているので調理時の音や香りで生活を感じて頂いている。エントランスでは外気浴が出来るよう椅子の設置を行っている。	居間の中央にあるオープンキッチンからは、食事の準備の様子が手にとるようにわかり、家庭的な雰囲気となっている。利用者は思い思いに過ごし、利用者同士の会話が弾んでいる。利用者の笑顔あふれる写真に、家族や来訪者はほっと癒される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の周りに居室がある為、自由に行き来している。天候が良い日は仲の良いご入居者がエントランスのベンチで談笑しておられる。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には馴染みの身の回りの物やご家族の写真の思い思いに飾っておられる。テレビを設置し自由に楽しんでおられる。	整理筆筒、椅子や机、昔の写真や好きな雑誌等を持ち込み、その人なりの暮らしぶりがうかがわれる。自分の部屋でテレビを観たり横になるなど、一人の時間を大切にしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は自分でして頂けるよう支援している。トイレは解り易く掲示している。		